

「春の小石川植物園(5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



これは「サンゴジュ」*Viburnum odoratissimum* (レンプクソウ科)「珊瑚樹」とはよく名づけたものだ。



小石川植物園の北半分の地域は、武蔵野台地上の末端にある。段丘崖の坂を下ると、池のある「日本庭園」が造られている。池畔のサクラもまた美しい。



これは「ハナズオウ」の樹。赤紫色のつぼみがたくさんついている。ジンチョウゲのつぼみと似ている。



「ハナズオウ」*Cercis chinensis* はマメ科の樹木である。マメ科の植物は、木本(樹木)と草本(くさ)の両方がある面白い科だ。花が咲こうとしているが、前の年の果実(豆の鞘)がたくさん残っていた。



これは「安行寒緋(アンギョウカンピ)」*Prunus tannesiana cv. Angyokanpi* という「サトザクラ」の一品種。ソメイヨシノとちがって、花と同時に葉も出てくる。これはこれで美しい。すべて下を向いて花がついているので、上を向いて撮影した。



こちらは「ユキヤナギ」*Spiraea thunbergii* 小さな白い花を穂のように大量につける。小さいながらも、バラ科の花の特徴を備えているのが面白い。